

■JAPANESE PATENT LAID-OPEN PUBLICATION NO. SHO 63-22499

In a shovel loader in which a shovel is vertically swingably attached to a tip end of an arm (4) extending from a traveling body (3); a middle portion in a longitudinal direction of a tilt arm (7) is pivotally supported by the arm (4) such that the shovel (6) swings so as to be tilted with a front side thereof lowered as the arm (4) is raised; one end of the tilt arm (7) is interlockably linked with the shovel (6) via a link member (13); a tilt cylinder (9) for swinging the shovel is provided between the traveling body (3) and the other end of the tilt arm (7); and a folk (15) can be attached in place of the shovel (6), a method for attaching the folk to the shovel loader by which the folk (15) can maintain a substantially horizontal posture regardless of an up-and-down angle of the arm (4) by linking the folk (15) and the tilt arm (7) with the link member (13) such that a posture of the tilt arm (7) at a time when the folk (15) is near the ground in a horizontal posture becomes more tilted toward the front side as compared to a posture of the tilt arm (7) at a time when the shovel (6) is near the ground in a horizontal posture when the folk (15) is attached to the arm (4).

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 特許出願公開

⑪ 公開特許公報 (A) 昭63-22499

⑫ Int.Cl.⁴

B 66 F 9/065
B 66 C 1/68
E 02 F 3/36

識別記号

厅内整理番号

⑬ 公開 昭和63年(1988)1月29日

Z-7637-3F
Z-8408-3F
A-6828-2D

審査請求 未請求 発明の数 1 (全5頁)

⑭ 発明の名称 ショベルローダへのフォーク取付方法

⑮ 特願 昭61-166323

⑯ 出願 昭61(1986)7月15日

⑰ 発明者 小谷 泰義 大阪府堺市石津北町64番地 久保田鉄工株式会社構製造所内

⑱ 出願人 久保田鉄工株式会社 大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号

⑲ 代理人 弁理士 北村 修

明細書

1 発明の名称

ショベルローダへのフォーク取付方法

2 特許請求の範囲

走行機体(3)から延伸したアーム(4)の先端に、上下活動自在にショベルを取付け、前記アーム(4)を上昇させるに伴つて、前記ショベル(6)が前下り姿勢に活動するよう、チルトアーム(7)の長手方向の中間部を前記アーム(4)に枢支し、且つ、前記チルトアーム(7)の一端部と前記ショベル(6)とにわかつてリンク部材(8)を連動連結すると共に、前記走行機体(3)とチルトアーム(7)の他端部とにわかつてショベル活動操作用のチルトシリンダ(9)を設け、前記ショベル(6)に代えフォーク頭を付換え自在にしてあるショベルローダにおいて、前記フォーク頭を前記アーム(4)に取付けるに際し、前記フォーク頭が地面近くで水平姿勢にある時の前記チルトアーム(7)の姿勢が、前記ショベル(6)が地面近くで水平姿勢にある時の前記チルトアーム(7)の姿勢よりも前傾姿勢に

なるよう、前記フォーク頭とチルトアーム(7)とをリンク部材(8)で連結して、前記アーム(4)の上下角いかんにかかわらず前記フォーク頭をほぼ水平姿勢に維持するショベルローダへのフォーク取付方法。

3 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明は、走行機体から延伸したアームの先端に、上下活動自在にショベルを取付け、前記アームを上昇させるに伴つて、前記ショベルが前下り姿勢に活動するよう、チルトアームの長手方向の中間部を前記アームに枢支し、且つ、前記チルトアームの一端部と前記ショベルとにわかつてリンク部材を連動連結すると共に、前記走行機体とチルトアームの他端部とにわかつてショベル活動操作用のチルトシリンダを設け、前記ショベルに代えフォークを付換え自在にしてあるショベルローダに関する。

〔従来の技術〕

従来、上記ショベルローダでは、第8図に示

特開昭63-22499(2)

すように、フォーク頭をアーム(4)に取付ける際に、フォーク頭とチルトアーム(11)の姿勢を、ショベル(8)を取付ける時と同様にして、フォーク頭とチルトアーム(11)とをリンク部材で連結していた。

〔発明が解決しようとする問題点〕

しかし、ショベル(8)による掘削作業時には、地面近くではほぼ水平な姿勢で掘削して、ショベル(8)内に収容した掘削土を、アーム(4)を上昇させるだけの簡単な操作でショベル(8)が前下り姿勢に振動して放出させられるために、掘削作業を効率良く行えるものの、フォーク頭による荷物運搬作業時には、地面近くで載置した荷物が、アーム(4)の上昇に伴つて前下り姿勢にフォーク頭が振動してしまうために(第8図仮想線)、荷くずれを起こしたり、荷物を落下させてしまう危険性があつた。

本発明の目的は、ショベル取付時の掘削作業性を低下させずに、フォーク取付時には、アームを上昇させても、フォークが前下り姿勢にな

(3)

トアームの姿勢よりも前傾姿勢になるように、フォークとチルトアームとをリンク部材で連結して、アームの上下角いかんにかかわらずフォークをほぼ水平姿勢に維持するだけで、フォーク上昇時に載荷物を落としてしまうことがない。

〔発明の効果〕

従つて、ショベルによる掘削作業とフォークによる荷物運搬作業の両作業時の操作性を簡単に向上させることができるようになつた。

〔実施例〕

次に、本発明の実施例を、図面に基づいて説明する。

第2図に示すように、前車輪(1)を備えた走行機体(3)の前側に、ショベル作業装置(8)を設けると共に、後車輪(2)を備えた走行機体(3)の後部の上部に、搭乗運転部(9)を設けて崩折れ型のショベルローダーを構成してある。

前記ショベル作業装置(8)を構成するに、前記走行機体(3)から左右一対のアーム(4), (11)を機体前方に向けて軸芯(P₁)周りで上下振動自在に延

(4)

らないようにする点にある。

〔問題点を解決するための手段〕

本発明におけるショベルローダへのフォーク取付方法の特徴構成は、フォークをアームに取付けるに際し、前記フォークが地面近くで水平姿勢にある時のチルトアームの姿勢が、ショベルが地面近くで水平姿勢にある時の前記チルトアームの姿勢よりも前傾姿勢になるように、前記フォークとチルトアームとをリンク部材で連結して、前記アームの上下角いかんにかかわらず前記フォークをほぼ水平姿勢に維持することにあり、その作用効果は、次の通りである。

〔作用〕

つまり、ショベル取付時には、アームの上昇に伴つてショベルが前下り姿勢に振動するよう、ショベルとチルトアームとをリンク部材で連結しても、フォーク取付時には、ショベル取付時とは異ならせて、フォークが地面近くで水平姿勢にある時のチルトアームの姿勢が、ショベルが地面近くで水平姿勢にある時のチル

(5)

出すると共に、前記両アーム(4), (11)夫々において、それと走行機体(3)とにわたつてアーム用の油圧シリンダ(6)を架設連結し、そして、前記両アーム(4), (11)の先端どうしにわたつて矢ヶブレーケット(10), (11)を介してショベル(8)を軸芯(P₁)周りで上下振動自在に取付け、第8図の仮想線に示すように、前記アーム(4), (11)を上昇させるに伴つて、ショベル(8)が前下り姿勢に振動するよう、両アーム(4), (11)長手方向中間部を一体連結状態に形成する連設部(6A)のほぼ中央位置で、チルトアーム(11)の長手方向の中間部を枢支し、チルトアーム(11)の一端部とショベル(8)に取付けたブレーケット(10)とにわたつてリンク部材を運動連結し、チルトアーム(11)の他端部と走行機体(3)のアーム(4), (11)枢支部よりもショベル側の位置とにわたつてショベル上下振動操作用のチルトシリンダ(6)を設け、もつて、油圧シリンダ(6)によるアーム(4)の駆動振動操作によりショベル(8)を升降操作し、そして、チルトシリンダ(6)によるチルトアーム(11)とリンク部材(9)の駆動

(6)

特開昭63-22499(3)

油圧操作によりショベル(6)を駆動掘削操作するようにしてある。そして、リンク部材(4)及びアーム(14)をショベル(6)から取外して、ショベル(6)に代えフォーク頭を取付けるに際して、第1図に示すように、フォーク頭が地面近くで水平姿勢にある時のチルトアーム(7)の姿勢が、ショベル(6)が地面近くで水平姿勢にある時のチルトアーム(7)の姿勢よりも前傾姿勢になるように、フォーク頭とチルトアーム(7)とをリンク部材(4)で連結して、アーム(14)の上下角いかんにかかわらずフォーク頭をほぼ水平姿勢に維持してある。

つまり、第1図に示すように、アーム(14)の上昇に伴う姿勢の変化率が、フォーク頭を取付ける時の方がショベル(6)を取付ける時よりも少なくなるように、前記フォーク頭には、アーム(14)及びリンク部材(4)を連結するためのフォーク用ブラケット(10)を取り付け、そのフォーク用ブラケット(10)のリンク部材連結部(11)を、アーム連結部(12)よりも、フォーク頭を水平姿勢にした時に機体側に位置するように配置して形成し、第2図

(7)

に示す従来のフォーク頭のブラケット(10)と同様に、ショベル(6)に取付けたブラケット(10)、即は、リンク部材連結部(11A)とアーム連結部(12A)とを、ショベル(6)の水平姿勢時に前後方向ではなく位置になるように配置して形成する。

〔別実施例〕

フォーク頭とチルトアーム(7)とをリンク部材(4)で連結するに、ショベル(6)に連結するリンク部材(4)よりも長いリンク部材(18)と取換えて、フォーク頭が地面近くで水平姿勢にある時のチルトアーム(7)の姿勢を、ショベル(6)が地面近くで水平姿勢にある時のチルトアーム(7)の姿勢よりも前傾姿勢になるようにしても良い。

前記ショベル(6)に着脱自在な取付部材を、アーム(14)及びチルトアーム(7)と枢支連結し、この取付部材に対して、中間部材を介してフォーク頭を着脱させても良い。

4. 図面の簡単な説明

図面は本発明に係るショベルローダへのフォーク取付方法の実施例を示し、第1図はフォー

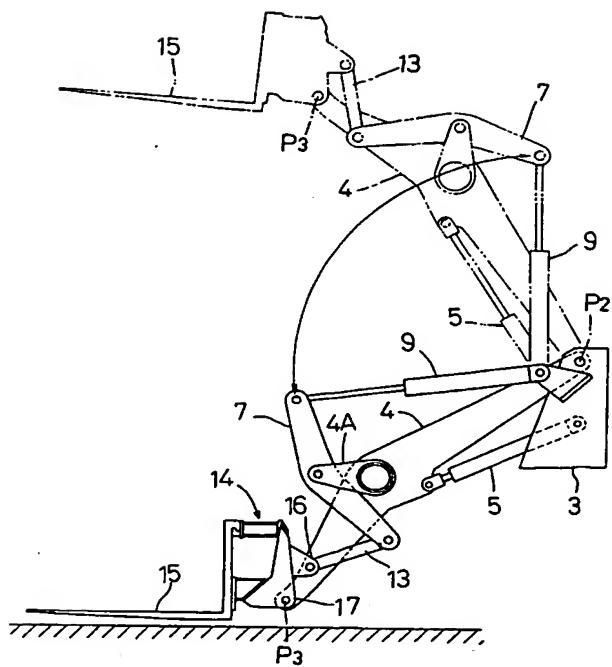
(8)

クを取付けた時の作用説明図、第2図はショベルローダの全体側面図、第3図はショベルを取付けた状態(仮想線)、又は、従来のフォークを取付けた時の作用説明図である。

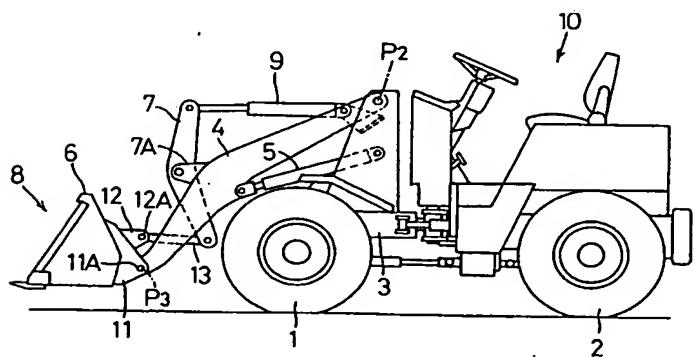
(1)…走行機体、(4)…アーム、(6)…ショベル、(7)…チルトアーム、(8)…チルトシリシング、(9)…リンク部材、(10)…フォーク。

特開昭63-22499(4)

第1図



第2図



特開昭63-22499(5)

第 3 図

